

大槌発

犠牲職員の状況調査へ

大槌町の平野公三町長は公務中に震災の犠牲になった38人の町の職員について、当日の状況を調査すると発表しました。調査は、遺族の申し入れを受けて町が初めて行うものです。3月上旬から3か月をかけて、震災当時の職員104人に当時の目撃情報などの提供を文書で依頼します。遺族への報告は6月中旬にも始まる予定です。(1/24 ニュースエコー)



山田発

釜石・宮古間で試運転



3月にJRから三陸鉄道に移管されるJR山田線の宮古・釜石間で列車の試運転が始まりました。この区間の旅客車両の

運行は8年ぶりです。新たに整備された山田町の陸中山田駅には久しぶりに走行する列車を見ようと沿線の住民も駆け付けました。試運転は2月2日まで行われ、鉄道の安全と踏切の作動などの確認が続けられます。(1/28 ニュースエコー)

釜石発

サヴァ缶のパスタソース

釜石の岩手缶詰が製造し、岩手県産が販売するサバの缶詰「Cava?缶」の味やパッケージをいかした2種類のパスタソースが完成しました。食品大手のエスピー食品が、震災復興に貢献しようと県や釜石市、関係企業と連携して開発しました。岩手のサバがふんだんに使われているこの商品、3月4日に全国発売されます。(1/28 ニュースエコー)



陸前高田発

BRTで自動運転の実験

JR東日本などが陸前高田市で行っている自動運転バスの実証実験の様子が公開されました。実験は、震災で被災したためバス高速輸送システム=BRTで運行しているJR大船渡線の専用道で行われ、路面の磁気マーカースの情報をセンサーで読み取りながら自動で走行しました。自動運転は将来的な運転士不足などの対策として期待されています。(1/29 ニュースエコー)



盛岡発

復興教育の成果を発表



震災後、県内全ての公立学校が取り組んでいる「いわての復興教育」の初めての成果発表会が盛岡で開かれました。発表したのは代表の8校で、このうち被災地研修などを

報告した岩泉町の浅内小学校の児童は「みんな『津波てんでんこ』と言っていました。一番伝えなかったのは自分の命を大切にすることです」と話していました。(1/30 ニュースエコー)

大船渡発

早採りワカメを刈り取り

ワカメの養殖に取り組む大船渡市立末崎中学校の1年生が、早採りワカメの刈り取りを体験しました。去年11月に種を付けた養殖ローブには1メートルほどに成長したワカメがびっしりと付いていて、生徒たちは漁家の指導を受けながら丁寧にワカメを刈り取りました。2月下旬からは本格的な刈り取りが始まります。(1/30 ニュースエコー)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIB公式サイトから<http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122